

夢 食 む 日 々 に <sup>(※1)</sup>高普第 25 回卒 上 田 昌 孝 <sup>(※2)</sup>

入学が決まってすぐ揃えたのが、革靴と革鞆、そしてダスターコートだった。全てが黒色だったが、随分大人になった気分だった。憧れのスタイルで桜咲く馬陵城趾を抜けて相馬高校に通い始めた日々は楽しかった。夢が次々と浮かんでふくらんでいった。

入学後、いろいろ考えたが郷土クラブに入ることにした。小学生のとき三貫地貝塚に行ってから日本の歴史に興味を持ち始めた。中学生時代にその芽が育ち、日本人の起源、さらに人間の起源にまで関心は広がっていった。郷土クラブの幅広い活動内容を聞いたときピンと来るものがあったのだ。

当時の部長は橋本博幸 <sup>(※3)</sup> 氏で、同じ3年生の小賀坂正広 <sup>(※4)</sup> 氏、佐藤峰雄 <sup>(※5)</sup> 氏等にいろいろ指導してもらった。顧問は故小暮知清 <sup>(※6)</sup> 先生と大迫徳行 <sup>(※7)</sup> 先生であった。先生や先輩に迫られたのはまず勉強することであった。多くの本を読んだ。民族学、考古学、日本史、民謡、民話、伝説、方言に関するものまで読みとばしたが、一番影響を受けたのは、やはりこの郷土部運動の生みの親である柳田国男の著作だった。相中にこの運動の種を蒔いたのは岩崎敏夫 <sup>(※8)</sup> 先生であったが、岩崎先生と柳田との深い関係を考えると相高郷土クラブの歴史の重みを感じざるを得なかった。そのうち、私の志望も2年生の頃には弁護士から文化人類学者に変わっていた。

クラブ活動は、今思い出しても愉快で楽しい。夏休みには福迫古墳や潜石古墳の発掘もした。愛沢正典 <sup>(※9)</sup> 君、蛭原幸三 <sup>(※10)</sup> 君、佐藤喜之 <sup>(※11)</sup> 君、逸見芳秋 <sup>(※12)</sup> 君、田中富士夫 <sup>(※13)</sup> 君、森正明 <sup>(※14)</sup> 君等の同期の連中と炎天下汗だくになりながら発掘作業を続けたものだった。

3年に進級すると部長になった。機関紙「青田原」を創刊し、愛沢君と一緒に相馬市中をオートバイで走り回り神楽の収録をし、冊子にまとめた。若さにまかせた活動だった。大迫先生にも1年生のときから民族行事を見るため各地に連れて行ってもらった。大倉や丸森、富岡、坪田の雷神社のお祭等今でも目に浮かぶ。寺島文隆 <sup>(※15)</sup> 先輩に連れられて他校の学園祭にも行った。双葉高、名取高、宮城県立二女高までも行った。

相馬女子高郷土クラブとの交流もなつかしく思い出される。なんといっても印象深いのは、毎秋、山上小学校裏の宇多川原で行われる芋煮会だ。豚汁やカレーを食べて薄暗がりになる頃キャンプファイヤーを囲んでフォークソングを歌ったり、フォークダンスをしたりした。

私の弟昌利 <sup>(※16)</sup> も部長をしているが、郷土クラブの影響は大きかった。学者にはなれなかったが、大学は文学部を選んだし、今も読む本は小説より、歴史、民族、言語、宗教関係が多い。高校生活の3年間は短かったが、今も魂の航海の母港となっている。素晴らしい夢をありがとうと言いたい。

- (※1) 「相中相高百年史」1998(平成10)年7月6日発行、「思い出の記」より。
- (※2) 昭和48(1973)年卒、中村出身。
- (※3) 高普第23回、昭和46(1972)年卒、中村出身。
- (※4) " "、新地出身。
- (※5) " "、中村出身。
- (※6) 相高教諭(社会):昭和24~49年。
- (※7) 高普第6回、昭和29(1954)年卒、大野出身。相高教諭(国語):昭和43~54年。
- (※8) 中第25回、昭和2(1927)年卒、中村出身。相中&相高教諭(国語):昭和19~31年。
- (※9) 高普第25回、昭和48(1973)年卒、中村出身。
- (※10) " "、中村出身。
- (※11) " "、中村出身。
- (※12) " "、中村出身。
- (※13) " "、八幡出身。
- (※14) " "、新地出身。
- (※15) 高普第20回、昭和43(1968)年卒、新地出身。
- (※16) 高普第30回、昭和53(1978)年卒、中村出身。